

所長	G長	課僚

会 議 報 告 書

【報告者 産業部林業振興課 渡辺悠登】

起案	令和3年11月18日(木)	部長	次長	課長	補佐	G長	課僚	起案
報告書								
議題 令和3年度サイト座談会		日 時：令和3年11月17日(水) 15:40～16:20 場 所：天竜林業会館2階会議室 参加者：22名(別紙名簿のとおり) 浜松市：野沢和好課長、藤江俊允副主幹、渡辺悠登						
1 概 要 ○ 天竜林材業振興協議会の令和3年第2回総会後に、各サイト関係者と座談会を実施。主な意見等は次の通り。 <u>国／浜松市民を含めたエンドユーザに選択的な購買が実現できるよう、国有林も森林認証の取得に貢献できるよう善処したい。</u> <u>水窪／皆伐・再造林の採算が合わず、伐りにくいのが現状。森林所有者へ適切な還元が図れるような、具体的な策を講じる必要がある。</u> <u>引佐／森林所有者への還元が大きくなる森林環境譲与税の用途を検討されたい。</u>								
2 内 容 (主な意見) 国) 当初、森林認証は書類の作成等、署員の手間や負担も大きいため反対であった。しかし、SDGsの機運も高まる昨今、違法な伐採等を防ぐ仕組みは重要とも感じ始めた。 <u>浜松市民を含めたエンドユーザに選択的な購買が実現できるよう、国有林も森林認証の取得に貢献できるよう善処したい。</u> 国) 林業における労働力不足や獣害はますます深刻化するなか、コロナの流行。正しい答えが不明確な時代だが、これを金原明善翁からの挑戦と前向きに捉え、官民連携し林業政策に取り組みたい。国有林を一種の「実験の場」として御活用頂ければ。 国) 天竜区佐久間地域では、大規模な風力発電の林地開発が始まろうとしている。当該開発に対する森林認証の考え方を整理しておく必要がある。 市) FSCは持続可能な木材資源の担保が命題であるため、認証林の開発は基本的にはNGと想定される。但し、過去に認証林(市有林)に清掃工場を建てたこともある。 <u>開発事業の公益性の高低が、認証林内の開発可否の判断基準の1つになる。</u> ----- 春野) 間伐等に際し、作業路網を多少強引に入れている現場も散見される。集中豪雨が頻発する昨今、自然災害の発生を危惧している。 市) <u>当該現場についてもFSCの現場審査の対象とし、指導・助言を仰ぐことも本地域の森林整備の技術向上のために必要。</u> 路網整備の際は、金銭的な負担を考慮するだけでなく、作業の効率や森林所有者の意向等適切な理由付けが不可欠。								

龍山) 行政主導の研修会や講習会も多々実施頂いている。今後、林業も革新を迫られる産業であることを踏まえると積極的に参加したいが、人工や経済的余裕の都合上、なかなか参加できないのが現状。また、補助金では多数の書類を整備する必要があり、これも担当者の負担となっていると思料。

市) 研修会等の実施時期や開催場所等は、主催側として見直せる部分もあると思料。補助金については、税の使途として説明責任が生じる側面があるのも事実。事務方の意見にも傾聴し、簡略化できる部分は改善を図りたい。

水窪) 県の素材生産目標量 500 千/m³を達成するよう施業を進められれば理想だが、皆伐・再造林の採算が合わず、伐りにくいのが現状。森林所有者へ適切な還元が図れるような、具体的な策を講じる必要がある。また、ウッドショックについても何か情報が整理されていれば提供願いたい。

国) ^{ウッドショック}W S は、以前の材価水準まで戻らず、現在の水準で高止まりする説がある。
市) 皆伐・再造林の採算調整は、森林・林業ビジョンには記載のない部分。地域の課題の1つとして素材生産や製材等の意見を取り入れながら、画策しなければ。

引佐) 森林所有者への還元が大きくなる森林環境譲与税の使途を検討されたい。

市) 譲与税は森林経営管理の意向調査はじめ、過去に森林整備が適切に実施されていない部分の施業を進めることに重きが置かれているのが現状。確かに、かねてから適切に管理されてきた森林の所有者への恩恵は小さな割合となっている。ただ、低コスト林業推進事業も拡充し、有効に活用できる部分もあるはず。浜松市森林・林業未来構想会議も設立したため、当該機会等を活かしてまた御意見を集約したい。

佐久間) 認証林外の話だが、市外の事業者による無届伐採の案件を耳にすることがある。通常の皆伐・再造林でも採算が見込めない手前、無届で（再造林なしに）伐採し大きなリターンを得ている事業者が存在することは、組合員のモチベーションにも関わる問題。

市) 無届伐採は森林法違反。森林組合で何か不穏な情報があれば、適宜当課まで情報提供頂きたい。地域に密着している森林組合と連携しながら、必要な行政指導にあたる。また、本市の森林整備計画は他市と異なり、皆伐後の天然更新は認めていないため、事業者等にその旨丁寧に説明することは大切。

林研) 人材育成・担い手確保事業による安全装備品の補助の対象者が自伐林家にまで拡充されたことに感謝。使いやすい補助金制度になった。昨年度の FM 認証年次監査時にも審査員からお話があったが、林業従事者にとって「安全」は極めて重要。

林研) (令和2年度、龍山森林組合で、チェーンソーで足の甲を伐る重篤な労働災害が発生したことを踏まえ) 爪先にだけでなく足の甲も保護できる靴があるので、各サイトで試されたい。また、路網整備について現場によりバラツキがあるのは事実。路網を入れて施業する期間だけでなく、施業終了後の路網の「管理」にまで着眼点を広げ、路網整備を今一度振り返ることが大切。

県) 昨今、学校教育にSDGsが取り入れられたり、SDGsをテーマとしたテレビ番組が作成されたりと、社会全体として環境意識が高まりつつある。SDGsに関連させた広い視野をもって、FSCの認知度向上に努めていくことが効果的と思料。また、素材生産者・製材・設計等川上から川下の繋がりが希薄なのは、本地域の課題の1つ。素材生産者側から、「こんな材を使ってほしい」と情報発信する姿勢も大切と感じる。

3 備考

コロナ禍により大人数での会議が避けられる昨今、森林組合や行政の意見を直接傾聴できる貴重な機会になったと思料。本市の森林整備技術やFSCの認知度向上、天竜材の需要拡大という共通命題の達成に向け、関係者との対話を丁寧に実施していくことが大切。

以上

令和3年度サイト座談会の様子

日時：令和3年11月17日(水) 15:40~16:20

場所：天竜林業会館2階会議室

